

はじめに

○乳香

- ・カンラン科ボスウェリア属の数種の樹木から採れる芳香ゴム樹脂
- ・古来、地中海世界において用いられた

○背景と目的

- ・先行研究の問題点・・・古典古代と現代を無批判に通時的につなぐ。中世イスラーム世界において乳香がどのように用いられていたのかという点について、一切検討しない。
- ・本研究の目的・・・中世イスラーム世界における乳香の用いられ方などを史料に即して明らかにすることで、先行研究において欠けていた箇所を補う。合わせて、乳香に着目することで、中世イスラーム世界史を新たな視座より再考する。

1. 史料について

○調査対象・・・アラビア語文献 (のべ約370点) + ペルシア語文献 (1点)

- ・地域・・・西アフリカ～中央アジア
- ・時代・・・およそ9-18世紀

薬事書・医学書、地理書・旅行記、ラスール朝史料群、al-Warrāq所収文献

2. 乳香を探して

○乳香を意味する単語・・・「lubān (لبان)」と「kundur (کندر)」 (ペルシア語起源)

- ・薬事書・医学書・・・kundurを多用
- ・地理書・旅行記・ラスール朝史料群・・・lubānを多用
←ギリシア語文献からアラビア語文献への翻訳地がペルシア語圏。継承される情報

・al-Warrāq (2015/05/10に最終アクセス)

lubān・・・220書誌中450頁、al-lubān・・・247書誌中1176頁

kundur・・・61書誌中297頁、al-kundur・・・61書誌中359頁

○各史料における乳香

- ・薬事書・医学書・・・ディオスコリデスらの引用に終始 →同時代性を認めがたい[後述]
- ・地理書・旅行記・・・産地に関する情報
- ・ラスール朝史料群・・・交易記事に見られる →情報量が少なく、商品としての乳香に特化
- ・al-Warrāq →「乳香」を意味する事例はわずか
لبان・・・乳香、胸部、乳、人名、ニスバ
کندر・・・乳香、肥満した男、人名、地名、ニスバ



乳香商（筆写撮影）



乳香山盛（筆写撮影）

3. 古典古代の知識の継承と新たな情報の付加

○薬事書・医学書と古典古代の文献との比較・・・地域性・時代性？

古典古代の文献に	見られる	見られない（新たな情報？）
産地	アラビア半島南部、西の地方、インド	シフル、アラビア半島南部の詳しい地名
種類	雄、西の地方産、インド産	シフル産
使用方法	焚香料と薬	[次節参照]
薬効	空気の清浄化、止血、傷口の膠着、頭痛止め、脱毛防止 etc.	物忘れ対策、知性の増加（？） （預言者の医学、シャーフィイー）

4. 中世イスラーム世界における乳香

○乳香商

○用いられる乳香・・・地域性・時代性・独自性を見出すことは難しい

○商品としての乳香・・・ラスール朝の専売制

おわりに

○嗜好品としての乳香

- ・古典古代から継承される使用方法
- ・記述量の少なさ、同時代性の薄さ⇔交易記録
普遍性、不変性
史料上に特記されることがないほどに社会に
溶け込み、継続的に流通し、消費された？

○今後の課題

- ・bukhūr・・・96書誌中224頁、
al-bukhūr・・・154書誌中378頁
- ・他の香料や嗜好品との比較・・・没薬

